

◆◆◆ 2008年の世界の自然災害

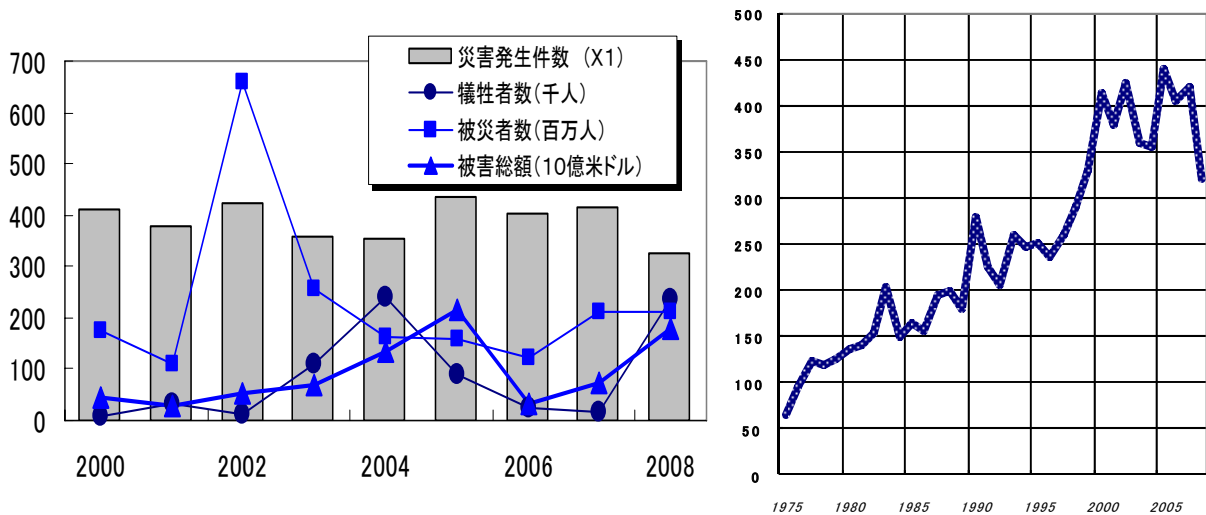
— 犠牲者数・被害総額ともに前年に比べて急増 —

国連の専門機関のひとつである国際防災戦略（ISDR）は、2008年の一年間に世界全体で321件の自然災害（*）が発生し、これらによる死者の数は235,816人に達したとともに2億人が影響を受け、被害総額は1,810億米ドル（約16兆円）に及んだことを1月22日に発表しました。

2008年の自然災害の犠牲者数（235,816人）は2000－2007年の平均（66,812人）の3倍に及び、5月にミャンマーを襲ったサイクロン「Nargis」際の138,366人と同じく5月に発生した中国の四川大地震の際の87,476人が特に目立っています。被害金額についても、この両者の災害によるものが大部分を占めています。また、国別の犠牲者数上位10カ国のうち、9カ国がアジアの国々でした。

* ここでの統計は、次の何れかに該当した災害を対象としている。

死者数：10名以上、被災者数：100名以上、当該国政府の非常事態宣言、国際的な援助活動の実施



2000－2008年の世界の災害の動向（左）と1975年以降の年間災害発生件数(右)

UN/ISDR 国連の国際防災戦略（ISDR：International Strategy for Disaster Reduction）は国連総会によって2000年に設立されたプログラムで、自然災害やそれに関連する事故災害および環境上の現象から生じた人的、社会的、経済的、環境的損失を減少させるための活動にグローバルな枠組みを与えるという目的をもつ。事務局は、ジュネーブ（スイス）に置かれている。

((財) 気象業務支援センター理事長 長坂昂一)